

# おやつのかん3 -ちょっとひとやすみ-

—お決まりの思い出—

NO. 15



ある家族の話。お姉ちゃんの習い事を待っている間、お母さんと妹は、いつものスーパーに行って買い物をし、いつものお店で、焼き鳥を一本。そんな“お決まり”が何年か続いていたそうです。「お姉ちゃんが毎週同じところに通っているのだから、妹にとっても毎週の同じ出来事。ただ連れてくるだけでは何も残らないし…」というのがお母さんの思いだったそうです。

「一度買ってしまおうと、次にまた欲しがっちゃうから…」という思いがよぎる方も、少なくないと思います。でも、この“お決まり”も、ポジティブに考えれば“幼き日々の中のほんのひとエピソード”になって、温かく残るのかもしれない。そのお母さんは、そこまで考えての行動ではなかったと思います。ただ過ごし方が決まっているほうが、お互いラクに時間をつぶせたのだそうです。

兄弟姉妹の関係では、今、手をかけなければならない子が、どうしても優先になると思います。「お兄さんなんだからね」「お姉ちゃん、やっておいてくれる？」と言わざるを得ない場面が続くことも多いでしょう。弟妹たちにも、やりたいことを我慢させてしまったり、じっくり付き合ってもらえなかったり。それでも笑顔が最高なのは、ご家族が、きっと絶妙なタイミングで、小さなオアシスを作っているからですね。(気づいていらっしやらないかもしれませんが…)

たまには、他の家族には内緒で、こっそりお母さんと二人でアイスを食べちゃったり。「今日はお兄ちゃんのリクエストに応じて、夕ご飯作ろうかな～。なにがいい？」と、朝のうちに声をかけてみたり。テレビを観ているときに、さりげなく子どもの肩に手を乗せてみたり。「なあに、ママ?」「何でもないよ。呼びたくなったから呼んだだけ」と、特に用事もないのに名前を呼んでみたり。わけもなく、ゆったりと抱きしめてみたり。

他にはどんな HOT タイムがありそうですか?手間もお金もかけずに、お母さんお父さんも気負わずにできる、ちょっとしたことがあると思います。それは、もう一カ月も前の出来事かもしれませんが、“あの時のうれしかった”エピソードとして、心のアルバムに刻まれているのではないのでしょうか。

家族の存在は絶対です。安心と安定の源です。だから、子どもは毎日のように怒られてもお母さんのことが大好きです。遊ぶ時間が少なくても、お父さんのことが大好きです。“家族”という絆でひとつになって守られていますからね。でも、身体や心がガス欠になったときは、見えるように、聞こえるように、感じられるように、LOVE を形にしないと、心細くなってしまうこともあります。「あなたのこともしっかり見ているからね」「かけがえのない存在なんだよ」というメッセージを、いろいろな形で伝えたいですね。やさしくなれる心の余裕や信じる気持ちを支えていくはずです。

私も小さい頃、喘息がひどかった姉の通院に毎度毎度付き合わされました。おもしろいことなど何もありませんでしたが、会計を待っている間に、瓶のリンゴジュースをよく買ってもらいました。その病院に行くと、瓶のリンゴジュースが飲めるので、病院に付き合うことも、それほど嫌ではありませんでした。今はあまりお目にかからなくなった瓶のリンゴジュースですが、たまに見つけると、とても懐かしい気持ちになります。いい思い出です。(H29. 8) K

